



2023協約改訂を全組合員で闘おう！シリーズ⑩

専任社員の労働条件を改善せよ！ 経営破綻させないためにリニア建設は中止せよ！

2023年度労働協約改訂第7回団交

本部は本日、2023年度労働協約改訂及び労働条件改善の第7回団体交渉を開催しました。今団交では、定年制度、専任社員の労働条件、リニアなどについて議論しました。

54歳原則出向について、本部は「現状にそぐわない制度であり、死文化している。廃止せよ」と主張しました。しかし、会社は「人事運用として有効に機能している。廃止する考えはない」の一点張りで、対立しました。

定年制について、本部は「60歳以降も100分の75ではなく、100%にせよ。定年の65歳まで定昇を行え。このままだと、モチベーションが下がる」と主張しました。しかし、会社は「すでに原資は持ち出して、これ以上賃金を上げることはしない。人生設計は60歳が区切りであるため、定昇は行わない」との一点張りで、対立しました。

専任社員について、専任Vや区分廃止、基本給の引き上げ、満了報労金の増額、労働時間緩和（高齢者用の勤務作成）、手当などの改善を主張しましたが、会社は「本来雇用しなくてもいい社員を雇用しているため、専任Vを廃止する考えはない。現職と同じ労働条件で働いてもらうことが専任社員の雇用条件であり、年齢を理由に労働条件の緩和や満了報労金を増額する気はない」などと、まるで雇ってあげているという姿勢を見せました。

リニア建設について、本部は「資金調達も返済計画も明らかにできないようでは、経営破綻を招く。営業費の4分の1がリニアの経費であり、労働条件や賃金に影響する。直ちに建設を中止せよ」などと主張しました。会社は、リニアの専門家ではないことを口実に、「手元に資料がない」と、まともな回答はできませんでした。

制服について、本部は「夏期は熱中症予防のために、白手袋や上着の着用は本人の判断にすべきだ。帽子も年間通して通気性が良い夏用で十分だ」と主張しましたが、会社は「制服は夏冬それぞれに合わせた生地で作ってある」として、対立しました。

※今団体交渉で要求事項の議論は終了し、次回（第8回）9月12日に回答があります。